

外環の計画のたたき台説明会

開催日	平成13年6月13日(水)	開始時間 19:00 終了時間 21:00
会場名	練馬区立三原台中学校	
出席者人数	住民側 約370人 行政側 国土交通省 関東地方整備局 川崎国道工事事務所 笹森事務所長、伊藤調査第一課長 東京都 都市計画局 成田外かく環状道路担当部長、石橋外かく環状道路担当課長	
配布物	たたき台パンフレット、説明会コメントカード、お知らせ用紙	
議事次第	1.開会 2.説明者紹介 3.挨拶 4.説明(スライド) 5.補足説明 6.質疑応答	

議 事 録

: 質問 : 意見 : 回答

男性(足立区):

渋滞緩和のために道路が必要だというのが、違法駐車をなくす等、現在あるものを生かしながら渋滞を緩和する方法を考えて欲しいが、どうか。

東京都では渋滞対策として、道路整備や交通需要の抑制等、総合的な対策を実施していく。公共交通整備や乗換利便性の向上による公共交通機関への転換、ロードプライシングなどの自動車利用の抑制、鉄道立体化や駐車規制の強化などの交通流の円滑化の3つの柱で進めていく。

男性(練馬区東大泉2丁目):

毎日公害に悩まされているという現状を知って欲しい。

もっと真剣に公害や環境の悪化について考えている住民に同調して、スピードを上げて実行して欲しい。

貴重なご意見として承る。

男性(練馬区三原台3丁目):

計画の年数や財政規模はどの位のものを予定しているのか。

地下方式にということだが、知事や大臣が代わった時に、金がかかるからやめるということにはならないのか。

都市計画の変更手続きおよび環境影響評価に要する期間は約3年前後と予想している。工事期間は、詳細は確定していないが、およそ10年と見込んでいる。財政規模については、掘割構造の外環千葉区間を例にとると、1kmで約1,000億円必要となる。技術開発によるコスト削減を目指している。

行政側としては、将来、政治的に計画の見直しがなされないという確約はできないが、外環の地下化については平成6年当時の鈴木都知事の提案から、地下であればどのようなやり方があるのか検討をこれまで続けている。

男性(練馬区東大泉2丁目):

今まで外環工事で得られたものを生かし、新しい計画では影響を減らすよう進めて欲しい。

地元に対する広報活動が非常に少なく、これからは地元に対する事細かな情報や方針を多く示して欲しい。

実際に影響を受けるであろう子や孫のために、影響を少なくしていく事を我々は考えてなくてはならない。

貴重なご意見として承る。

男性(練馬区東大泉6丁目):

開削で八の釜の森と湧水が守られるのか。ボーリング調査で地下水の詳細な動きを把握できるか。

都でも公害防止条例から環境確保条例に変えられたが、これと外環推進との整合性はどこにあるの

か。また地下水の問題で環境影響評価でどこまで具体的に評価をしようとしているのか、具体的に知りたい。

八の釜の森や湧水への影響に関しては、現地において地下水の調査を実施した後検討を行う。調査結果や代替措置等は、今後、環境アセスメント等を通じて公表する。

都としては、湧水や地下水の保全本は大変重要なことだと思っている。早く周辺の現地調査を行い、それに基づく適切な設計、施工を行っていききたい。

男性（練馬区東大泉2丁目）:

開削工法の地上部は宅地よりも公園でという考えが強く感じられるが、地上に対する影響があるからなのか。

長い工事に不安を感じるが、工事が始まった際、工事車両の横行、その排気ガス、騒音等の問題があるだろうが、配慮されるのか。

開削工法の地上部は公園だけでなく、道路、住宅などいろいろな利用方法がある。

工事中の地域への影響については、環境アセスメントの中で検討し、公表していく。

女性（練馬区東大泉2丁目）:

トンネルからの排出ガスは換気施設で処理するとあるが、新しい道路をつくる前に、既存道路できると証明してから取りかかって欲しい。

地下水対策で、調査してやってみないとわからないというのでは困る。

たたき台も1回やれば形式的にやったというのではなく、議論は積み重ねて欲しい。

トンネルからの排出ガスについては新技術の利用も含めて、影響を軽減させるよう検討する。

地下水への影響は、環境アセスメントを通じて明らかにしていく。

説明会は1回で終わりではない。進め方の4つの柱に関する活動は何度も行うつもりである。

新技術による環境影響軽減を図るのであれば、事例を示してほしい

ボーリング調査で八王子城の井戸が枯れた。ボーリング調査を実施しただけで地下水が涸れてしまう危険性があることについて考えを聞きたい。

新技術の多くは現在実用化されておらず、開発途中である。

八王子城の状況については、どのような原因か確認したい。

男性（練馬区三原台3丁目）:

私達の35年間の苦しみに対して真摯に償いを検討して欲しいが、どうか。

ICは地下構造にできないか再検討し、外環道の上は開削部を除き現状のままにし、現状のまま車道はつくらないようにすることを望むが、どうか。

道路工事による移転問題が不安だが、どうか。

35年間にわたり私権制限をかけ続けたことは、大臣も遺憾の意を表明し、行政としても重い事態と受け止めている。また、私権の制限に対する補償については、過去の裁判の判例をみても難しいと考える。

地上部の利用方法については、いろいろなメニューが考えられるが、周辺の土地利用状況、交通状況、寄せられた意見をもとに地元と相談しながら決めていくつもりである。

生活再建の方法については、個別、具体的話なので、その段階で誠意を持って対応したい。

男性（練馬区三原台3丁目）:

関越とのJCT、ICが八の釜の辺りを通るということだが、この地域に関わることをもっと具体的に教えてもらえないか。

現時点では詳細な図面は作成していないが、早急に作成していく。

男性（練馬区三原台3丁目）:

たたき台には、マイナスの影響に対する基本的な方針だとか対策についての考え方を盛り込み、それに対する意見を聞くのが公平なやり方ではないか。今後はたたき台についてもっと練り、諸問題に対しどの辺りまで解決できるかを書き込み、その上で改めて意見を聞くという機会を設けてもらいた

い。

メリットもデメリットもきちんとフェアにだして、きちんと評価したり、議論して欲しい。高架に伴って起こる問題は解決する部分もあるだろうが、地下水や換気塔など地下化に伴って生じる問題があるのではないか。

必要性の議論は、今後、データも含め、メリット、デメリット双方を検討していく予定である。

ただし、特に環境に対する影響を明らかにしていく上で、どうしても現地調査を行う必要があることをご理解いただきたい。

男性（練馬区東大泉2丁目）:

大泉IC付近の混雑を解消して、外環とそれに付随する道路を整備して、後生からも喜ばれる練馬区として欲しいが、どうか。

現在、大泉IC付近は道路のネットワークがきちんと整備されていないため、混雑している。今後関係局、あるいは区とも十分調整を図って道路の整備を行っていききたい。

男性（練馬区東大泉6丁目）:

開削工法によってなくなる八の釜湧水を作り直すということで本当に、湧水を作り直すことができ、それで湧水を守ることになるのか。

いかなる工法でも、巨大なコンクリートの構造物を地下に設けるということが、地下水の流れをせき止めてしまうことにならないのか。

地下水の対策については、地下水の状況によって変わるため、今後現地調査を行った後に検討を行いたい。あわせて地下水分断防止対策については、具体的なことは今後調査していきたい。

男性:

池の水や井戸の水は地下にトンネルを掘ると水が抜けるといわれているが、抜けない方法があるのなら説明してもらえないか。

現在の外環環状道路等の排気ガスからくる空気の汚染等について、工事前、後の調査結果を発表してもらえないか。

地下水の対策については、地下水の状況によって変わるため、今後現地調査を行った後に検討を行いたい。

現在整備済みの外環に関しては事後調査を実施しており、平成8年に報告書が作成されている。既に通している外環区間では、騒音対策として、低騒音舗装や遮音壁の整備等の対策を行っている。

男性（武蔵野市）:

原点についてや地域の緒問題について、徹底的に話し合う場が必要であり、行政はそれを設定して、話し合う気があるのか。

今後行政と住民の代表との話し合いの場については、現在準備を進めており、今後、そのルールづくりを行っていく。